

アイヌ施策の総合的な推進について

国土交通省 北海道局

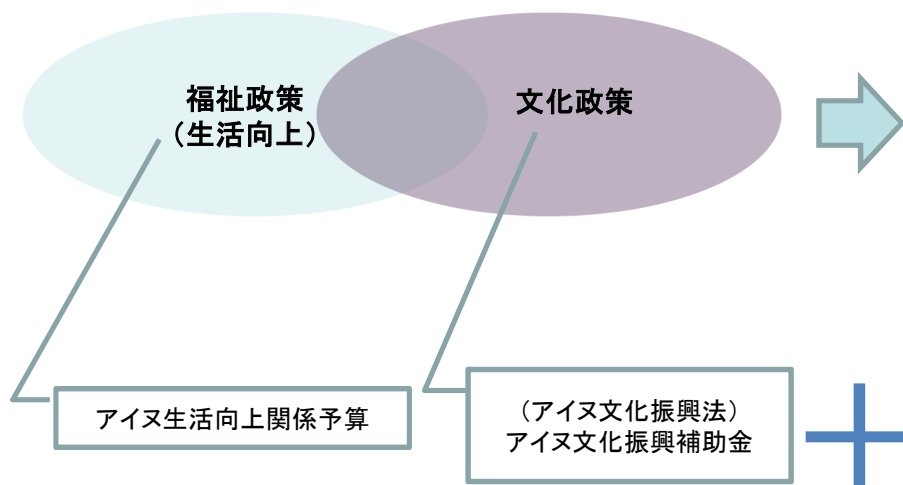
令和2年2月

1. 新たなアイヌ政策の体系

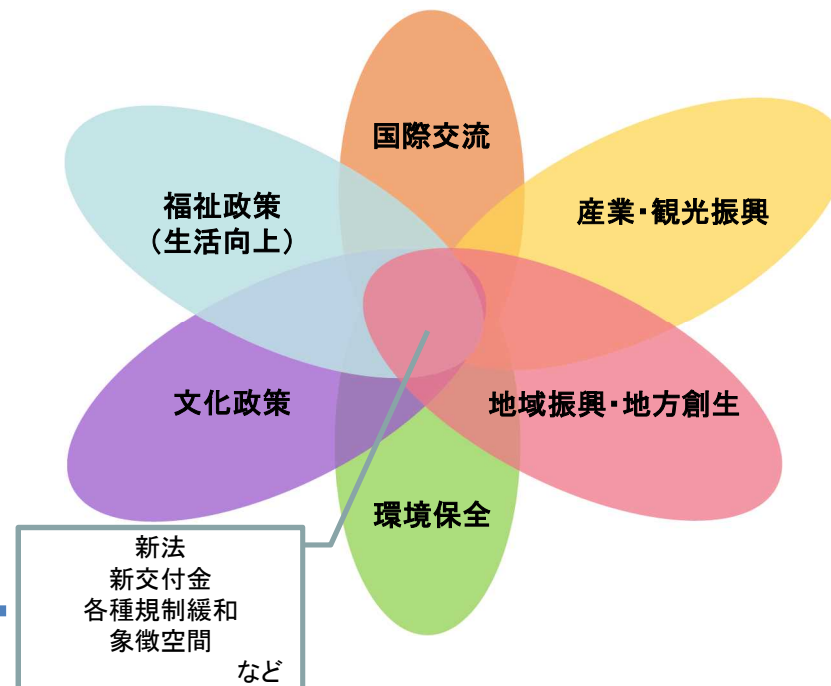
アイヌ政策に関する主な経緯

平成 9(1997)年 アイヌ文化振興法制定(北海道旧土人保護法(明治32年制定)廃止)
平成19(2007)年 9月「先住民族の権利に関する国連宣言」 ※法的拘束力なし
平成20(2008)年 6月 衆参両院において、「アイヌ民族を先住民族とすることを求める決議」を全会一致で採択
同日 町村内閣官房長官談話(「アイヌの人々が先住民族であるとの認識」及び「有識者懇談会の設置」)
平成21(2009)年 7月「アイヌ政策のあり方に関する有識者懇談会」がアイヌ文化復興のための「象徴空間の整備」を提言
※法制定についての検討も求める
平成26(2014)年 6月「象徴空間の整備・管理運営に関する基本方針」を閣議決定
平成31(2019)年 4月「アイヌの人々の誇りが尊重される社会を実現するための施策の推進に関する法律」
(アイヌ施策推進法)の成立(5月施行)
令和元(2019)年 9月「アイヌ施策の総合的かつ効果的な推進を図るための基本的な方針」を閣議決定

【従前の政策体系】



【新たなアイヌ政策の体系】



2. アイヌ施策推進法の概要 (H31(2019).4公布)

1. 総 則

- 目 的 ▶ アイヌの人々が民族として誇りを持って生活することができ、及びその誇りが尊重される社会の実現
※「先住民族であるアイヌの人々」と記載し、先住民族としての認識を示す
- 基本理念 ▶ アイヌの人々の民族としての誇り、自発的意思の尊重 等

2. アイヌ施策の総合的・効果的な推進

【政府】基本方針の策定

【市町村】アイヌ施策推進地域計画の作成

内閣総理大臣の認定

交付金の交付

- 認定計画に記載された事業の実施に対して
交付金を交付

法律の特例措置等

- 国有林野における林産物の採取に関する特例
- 伝統的儀式等のためのさけの捕獲に関する配慮
- 地域団体商標の出願に係る手数料・登録料の減免

<基本的な考え方>

- アイヌの人々が抱える様々な課題を解決
- そのため、これまでの福祉・文化政策に加え、
地域・産業・観光振興も含めて総合的かつ
継続的にアイヌ政策を推進

3. 民族共生象徴空間の管理に関する措置

- ▶ 民族共生象徴空間の管理の委託、入場料等の徴収に関する措置 等
- ※民族共生象徴空間は、アイヌの文化復興等に関するナショナルセンターとして、
北海道白老町に令和2(2020)年4月オープン



4. 推進体制の構築

- ▶ アイヌ政策推進本部 (本部長：内閣官房長官、副本部長：国土交通大臣、本部員：関係大臣) の設置 等

※R1(2019)年9月には、「アイヌ施策の総合的かつ効果的な推進を図るための基本的な方針」を閣議決定

3. アイヌ政策推進交付金（内閣府）

- 文化振興や福祉施策に加え、地域振興、産業振興、観光振興等を含めた市町村の取組を支援する交付金制度
- 市町村が計画を国に申請し、国が認定、認定を受けた計画に基づく事業に対して交付金を交付
- 令和2年度予算政府案 20億円(内閣府計上)

<対象事業>

文化振興事業

- ①伝統的なアイヌ文化・生活の場の再生支援



- ②アイヌ文化の体験交流



地域・産業振興事業

- ③アイヌ文化関連の観光プロモーションの実施



- ④アイヌの観光振興、コミュニティ活動支援のためのバス運営



- ⑤アイヌ文化のブランド化推進（デザイナーとのコラボ）



- ⑥木工芸品等の材料供給システムの整備



コミュニティ活動支援事業

- ⑦アイヌの人々と地域住民との交流の場の整備（多機能型交流施設の整備）



- ⑧アイヌ高齢者のコミュニティ活動への支援



- ⑨アイヌ文化等を担う人材育成のための子どもの学習支援



4. アイヌの人々の課題解決のための規制緩和等

○ アイヌの伝統的儀式や生活様式などアイヌ文化を守っていくため、アイヌ施策推進地域計画に基づく、法律上の特例措置を創設

○ 国有林野における林産物の採取に関する特例



イナウ(木製の祭具)の材料となるヤナギの採取



イナウを立てた祭壇

○ アイヌの伝統的儀式・漁法の伝承等のためのさけの採捕への配慮



伝統的漁法による河川でのさけの採捕



伝統的漁法によるさけ漁の体験交流事業

○ 地域団体商標の商標登録出願手数料の軽減



二風谷イタ(盆)



二風谷アットゥシ(樹皮の反物)

5. 民族共生象徴空間(ウポポイ※)の概要

※アイヌ語で「(おおぜいで)歌うこと」という意味

ウポポイは、アイヌの文化発展のための拠点となるナショナルセンター。北海道白老町しらおいちょうに令和2年4月24日オープン。目標年間来場者数は100万人。

- 主な施設は、「国立民族共生公園」、「国立アイヌ民族博物館」、「慰霊施設」。
- 令和元年5月には「アイヌ施策推進法」が施行。同年9月にはその「基本方針」が閣議決定。年間来場者数100万人を目指す旨明記。
- 現在、目標達成に向け、受入環境の整備や広報活動等を実施。

民族共生象徴空間

●北海道白老町ポロト湖畔を中心に整備

白老町位置図

ウポポイへのアクセス
高速道路又は特急列車利用で札幌から約1時間
新千歳空港から約40分

民族共生象徴空間位置図

国立アイヌ民族博物館

●アイヌの歴史・文化等を研究し、国内外に正しい認識と理解を促進する情報発信拠点。

●アイヌの歴史・文化等に関する十分な知識をもつ専門家を育成し、博物館等をつなぐネットワーク拠点。

博物館完成 令和元年12月

【令和元年11月現在の状況】

慰霊施設

●ポロト湖の東側の太平洋を望む高台に慰霊施設を整備

慰霊施設完成 令和元年9月

【令和元年10月現在の状況】

国立民族共生公園

●舞踊、工芸等のアイヌ文化を体験・交流する体験型のフィールドミュージアム

公園全体完成 令和2年3月予定

【令和元年10月現在の体験交流ホールの整備状況】

◆営業日		◆入場料金	
・毎週月曜日及び年末年始を除き、毎日営業		・博物館と公園の共通券に一本化(博物館の特別展示や一部の体験メニューを除く)	
◆営業時間		入場料	税込価格
令和2年4月24日～令和2年7月19日 令和2年9月1日～令和2年10月31日	土日祝日 9:00～20:00 上記以外 9:00～18:00	大人(一般/団体)	1200円/960円
令和2年7月20日～令和2年8月31日	9:00～20:00	高校生(一般/団体)	600円/480円
令和2年11月1日～令和3年3月31日	9:00～17:00	中学生以下	無料

年間来場者数100万人を目指すための取組

○受入環境の整備 : 国道36号拡幅等交通アクセスの改善、JR特急停車本数の増加(12本⇒31本)、多言語解説(全8言語)、無料wifi 等

○広報活動等の推進 : 人気ドラマタイアップ、ラグビーW杯・G20観光大臣会合との連携等広報活動の推進、案内標識の充実、夜間営業に対応したコンテンツの充実 等

アイヌの歴史と文化を6つのテーマで構成し、各テーマに目玉展示を設けて、国内外の方に分かりやすく紹介

＜展示の基本構成＞

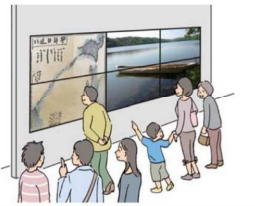
1. 基本展示室へのアプローチ空間に、展示への期待感を高める「**A 導入展示**」を配置
2. 基本展示室入口に、代表的な資料を通してアイヌ文化を一望できる「**B プラザ**」を配置。短時間の見学にも対応し展示更新でイメージを一新
3. アイヌの人々の「私たちの」という視点で語る6つのテーマで構成（「**C ことば**」、「**D 世界**」、「**E 暮らし**」、「**F 歴史**」、「**G しごと**」、「**H 交流**」）
4. 子供たちが主役となって楽しみながらアイヌ文化に親しめる「**I 子供向け展示**」を展示室内3カ所に分散配置

ロビー展示（1階）

北海道内のアイヌ文化にゆかりの深い地域の文化伝承活動や関連施設等を幅広く紹介する。

アイヌ文化ゆかりの地ガイド

各地の文化伝承活動や見どころ等をマルチ映像で多面的に紹介し、現地に足を運んでもらうきっかけとする。



I 子供向け展示

ゆっくり本を読んだり、体験キットやワークシートを使って楽しく学べる場（3カ所に分散して配置）。

展示資料との間をつなぎ理解を深める体験アイテム
各テーマに沿ったアイテムを配置し、自由に体験ができるようにする。



H 私たちの交流

生活の中の交易品等から周辺諸民族との交流の足跡を辿るとともに、近年の先住民族同士の交流を通して、日本における多文化共生の在り方を伝える。

広範囲に及んだアイヌの人々の交易のシンボル「板楯舟」をダイナミックに展示

原寸の板楯舟を海に漕ぎだしているような演出とともに展示し、周辺諸民族と広く交流し交易を行ってきたアイヌの人々の足跡を印象的に紹介する。



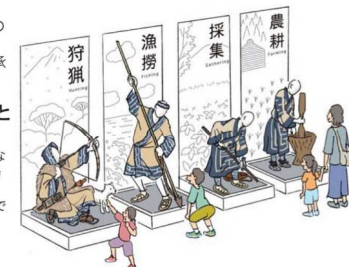
海のイメージ演出

G 私たちのしごと

伝統的な生業活動に続いて、近代化の中で多様化していくしごとを広く紹介し、伝統文化が変化しつつも現代にまで継承されていることなどを伝える。

時代とともに多様化するしごとを人々の姿とともに展示

狩猟・漁撈・採集・農耕といった伝統的な生業を、代表的な装備や道具とともに臨場感のあるシーン設定で紹介する。人物に焦点を当て、その後の近代化の中で変化していくしごとと比較できるようにする。



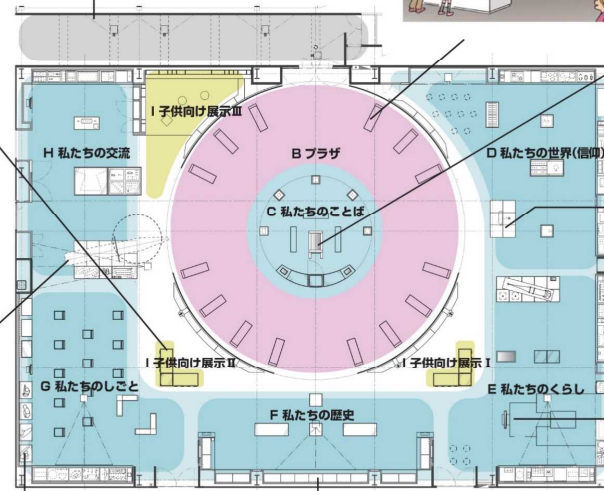
A 導入展示

アイヌ民族や世界の民族との出会いを通して期待感を高めながら展示室に誘う。



B プラザ

各テーマの代表的な資料を更新しながら紹介するガイダンス展示。



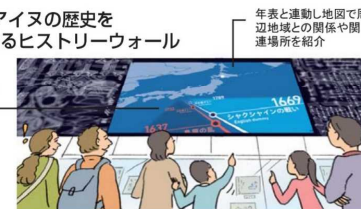
F 私たちの歴史

旧石器時代から現代までの時間軸、および周辺の人々との交流を含めた空間の広がりを重視し、重要なピックを取り上げながら歴史を紹介する。

地図と年表が連動しアイヌの歴史をビジュアルに一覧できるヒストリーウォール

ケース上部に大型映像を投影し、アイヌの歴史を視覚的にわかりやすく紹介する。

アイヌ関連の年表がゆっくりスクロールしていく



C 私たちのことば

アイヌ語の基礎的な構造、地域差、地名、周辺諸言語との関係、言語復興の取り組み等を紹介する。

囲炉裏を囲み目の前で話を聞いているような臨場感ある映像

ガラススクリーンに語り手が登場し、あたかも目の前にいるかのような臨場感ある雰囲気の中で語りかけてくれる映像コーナー。みんなで囲炉裏を囲みながらアイヌの口承文芸や日常会話を聞くことができる。



囲炉裏のモニターで映像を選択

D 私たちの世界（信仰）

アイヌの宗教（信仰）を理解するためのカムイ（神）の考え方や自然観、死生観等を中心に紹介する。

クマと巨大なクマつなぎ棒でアイヌの世界観を印象づけるシンボル展示

霊送り儀礼（イオマンテ）に供えられる高さ数メートルの巨大なクマつなぎ棒と装飾されたクマを象徴的に展示し、アイヌの世界観を印象的に紹介する。

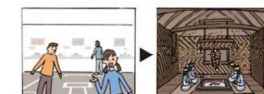


E 私たちの暮らし

衣食住、人の一生、音楽や舞踊等について多面的に取り上げ、アイヌ文化の特色や地域差、伝承に携わる人々の取り組みを紹介する。

家屋（チセ）が目の前で立ち上がり内部が再現されるAR展示

床面に原寸で描かれた家屋の間取りをモニター越しに見ると、家屋の内部がAR（拡張現実 Augmented Reality）で立ち上がり、建物の特徴や暮らしの様子を見ることが出来る。



モニター越しにカメラで映した映像が見られる

床面から住居が立ち上がり、内部の様子や産る場所等を解説



床面に家屋の間取りを再現

モニター越しに見ると・・・

5-② 国立民族共生公園

体験交流ホール

国内外の多数の来場者を対象とする芸能分野(古式舞踊、音楽、口承文芸等)の公演や体験交流活動等ができる施設。

最大530名程度収容可能。

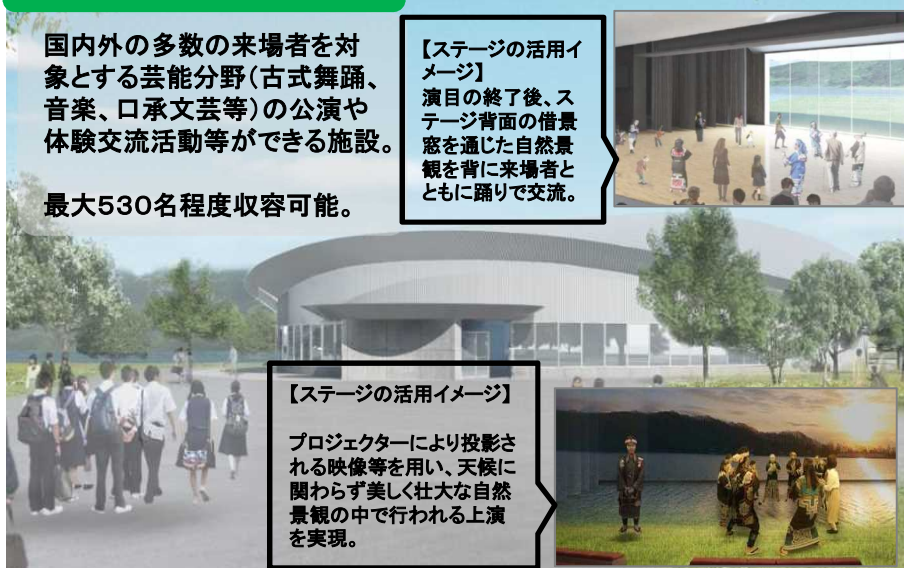
【ステージの活用イメージ】

演目の終了後、ステージ背面の借景窓を通じた自然景観を背に来場者とともに踊りで交流。



【ステージの活用イメージ】

プロジェクターにより投影される映像等を用い、天候に関わらず美しく壮大な自然景観の中で行われる上演を実現。



体験学習館

修学旅行生をはじめとする団体の来場者を主たる対象とし、アイヌ語や伝統的生業(狩猟・漁労・採集・料理等)の学習、工芸(木彫・刺繍・織物等)の製作体験等の体験交流ができる施設。

伝統楽器ムックリ(口琴)演奏体験やアイヌの食文化に触れる試食体験ができる施設。

最大400名収容可能。



試食体験(イメージ)



工房

工芸(木彫・刺繍・織物等)の製作体験、工芸製作者による製作実演の見学や伝承活動を行うことができる施設。

最大100名程度収容可能。

伝統工芸の実演を通じた伝承、アイヌ文化への関心・興味の拡大



木彫



刺繍



織物



伝統的コタン

チセ群や畑等による伝統的コタンを再現。伝統的生業(狩猟・漁労・採集・料理等)や伝統的儀礼等の伝承活動のほか、各種体験プログラムを実施。来場者又は来場者とスタッフが対話や交流を深めながら、アイヌの伝統的な生活空間を体感。



5-③ ウポポイ 体験交流プログラム準備状況

○ウポポイでは、アイヌ文化やアイヌの世界観、自然観、信仰等を幅広く伝えるため、園内の各所で様々な体験交流プログラムを提供。
 ○来場者がプログラムの見学・参加を通じて、アイヌ文化を五感で体験。

伝統芸能上演

アイヌが伝承してきた歌や踊り、伝統楽器の演奏などを上演。最新の映像技術や北海道の美しい映像も演出として取り入れています。



芸能

ムックリ(口琴)、トンコリ(五弦琴)など伝統楽器に直接接触して、その音色を楽しむことができます。伝統的コタンでは、囲炉裏を囲んでお客様と交流を行いながら、アイヌの唄や踊りを身近に体験することができます。

- ムックリ演奏 ●トンコリ演奏 ほか

食文化

アイヌの暮らしの知恵と自然の恵みが詰まった「食」。様々な調理法や、四季折々の素材を用いた料理、食育の視点を取り入れた体験などを通じて、食文化の奥深さを味わうことができます。

- 食事体験 ●調理体験 ほか

手仕事

木彫や刺繍などの製作体験を通じて、民芸品で用いられる彫りや刺繍の技術、歴史を学ぶことができます。各地から招く工芸家等による様々な民芸品製作の実演を行います。

- 木彫体験 ●刺繍等体験 ほか

生業・生活

儀礼のための装具や着物、生活のための道具、それらに施される装飾など、アイヌが伝承してきた生活の技術を体験できます。



- 民具製作体験
- 民族衣装着用体験
- 自然観察 ほか

儀礼公開

季節ごとに行われる様々な儀礼を公開します。儀礼を通じて、アイヌの世界観や自然観、信仰等を体験できます。



- 歓迎の儀礼
- 豊漁・豊作祈願 ほか

キッズプログラム

アイヌの子どもたちは、生活に必要な能力や技術を遊びの中から身につけていきました。ウポポイでは「遊び」と「学び」の要素を持たせたキッズ向けプログラムを提供します。



- ミニ人形劇上演
- 紙芝居読み聞かせ ほか

博物館プログラム

展示物を簡単に紹介するギャラリートークや、気軽楽しめるワークショップから専門的な連続講座などのホリデーイベントを開催します。また、学校団体向けの教育活動も積極的に展開し、博学連携を図っていきます。

- ギャラリートーク ●ホリデーイベント
- グループレクチャー ほか

●学校団体の予約受付開始【12月16日(月)開始】

○令和2年度入場予定の学校行事を対象として、12月16日(月)から学校団体の予約受付を開始。

【スクールプログラム】

グループレクチャー はじめてのアイヌ博

- 定員/ 150名
- 料金/ 無料
- 時間/ レクチャー30分 + 展示自由観覧(9:00~17:00)



伝統芸能上演

- 定員/ 300名
- 料金/ 無料
- 時間/ 50分(9:00~16:00) ※1日4~6回 ※入退場時間を含む



アイヌ料理実食体験

- 定員/ 300名
- 料金/1,000円程度
- 時間/ 50分(11:30~13:30)



ムックリ演奏体験

- 定員/ 300名
- 料金/800円程度
- 時間/ 30分(9:00~17:00)



ムックリ製作体験

- 定員/ 40名
- 料金/ 800円程度
- 時間/ 60分(9:00~17:00)



アイヌ文様刺繍等体験

- 定員/ 40名
- 料金/800円程度
- 時間/ 60分(9:00~17:00)



5-④ 慰霊施設

アイヌの人々による尊厳ある慰霊の実現のため、
集約された遺骨等の慰霊及び管理を行う施設。

「墓所」

モニュメント

慰霊行事施設

- 直ちに返還できない遺骨等についてはウポポイに集約し、アイヌの人々による尊厳ある慰霊の実現を図るとともに、アイヌの人々による受入体制が整うまでの間の適切な管理を行う役割を担う。(令和元年9月6日閣議決定)
- 令和元年11~12月、関係大学(北海道大学等9大学)が保管する遺骨のうち、返還申請のあったもの等を除き、約1,600箱が慰霊施設に集約。

6. ウポポイ(開業に向けた施策の充実等)

経費の概要

アイヌ文化の国民理解の促進等を図るため、令和2年4月に北海道白老町で開業する民族共生象徴空間(ウポポイ)への年間来場者数100万人を目指す。

- ①このため、開業後の夏休み期間等において、日中の伝統的プログラムに加え、夜間営業(～20時)を実施することとし、そのためのエンターテインメント性を持たせた魅力的なプログラムを造作する。
- ②また、ウポポイの認知率が依然として低いことを踏まえ、開業の直前・直後の時期に、認知率の飛躍的向上を図り、より多くの方にウポポイの魅力知っていただくためのプロモーション活動を集中的に実施する。

100万人実現のための戦略

■魅力的なコンテンツの充実

- ・欧米豪をターゲットとした博物館の展示内容のPR。
- ・白老町と連携したグルメイベントや白老のグルメ情報の発信を実施。

■各主体が連携した戦略的なPR

- 周辺観光地も合わせたPR
- ・登別、札幌等の周辺人気観光地とセットの魅力的な周遊ルートをPR。
- ・旅行業界へ商品造成を働きかけ。

■教育旅行誘致の働きかけ

既に北海道で教育旅行を行っている学校がウポポイを行程に組み込むよう、各種働きかけを実施。

■交通アクセスの充実

北海道、周辺市町村、JR北海道と連携し、交通アクセスを充実。



エンターテインメント性のある夜間プログラムの実施

道外・道内旅行者、アジアからの、伝統的プログラムに対する興味度が低い層をターゲットとする。

開業の直前・直後の集中的なプロモーション活動

国、アイヌ民族文化財団、北海道等が連携してPRを実施。開業直前・直後の時期に認知率の飛躍的向上を図り、より多くの方にウポポイの魅力知っていただくために集中的に実施。

施策の充実

①エンターテインメント性のある夜間プログラムの実施

夜間のプロジェクションマッピング、VR等の実施。



プロジェクションマッピングの実施

②開業の直前・直後の集中的なプロモーション活動

- ・テレビCM、WEB広告
- ・鉄道利用者に向けたPR
- ・旅行サイト、旅行ガイド雑誌でのPR
- ・交通拠点におけるウポポイへの誘導サインの設置



鉄道利用者に向けたPR

等

※上記はいずれもイメージ

年間来場者数目標100万人の実現へ